

ワイヤークラスプ型レジン床義歯の意義と改良製法

Michael Weiß

KEY WORDS : レジン床義歯 / 暫間義歯 / 移行義歯 / 前処置

口腔衛生意識と歯科医療水準の向上に伴い、歯牙喪失の頻度が減少傾向にある今日、欠損歯列の補綴の大半は固定性義歯によって行なわれるようになった。それでも、部分床義歯による補綴を必要とする症例は少くない。このような場合、歯科医師も患者もコバルト・クロム合金の鑄造床義歯を選択することが多い。それにもかかわらず、本稿においてワイヤークラスプで維持するレジン義歯について検討しようというのは、はたして意味のあることであろうか？

この問題をより詳細に検討すれば明らかのように、ワイヤークラスプ付きレジン床義歯を適用すべき症例は——とくに廉価な義歯であるという理由から——なお多い。適応症には次のものがある：

- いわゆる寝たきりの患者、あるいは“現時点”では他の補綴法の適用が不可能な患者
- 老人補綴のための“移行義歯”
- 最終的な補綴を行なうまでの即時義歯ないし暫間義歯(たとえば事故などによる歯牙喪失後の暫間補綴、あるいは歯周治療、

外科治療または矯正治療と並行して行なう暫間補綴)

ワイヤークラスプで維持するレジン義歯は、即時義歯として次のような長所がある：

- 良好な創傷治癒
- 発音機能の維持
- 咬合機能の維持
- 審美性の維持
- 患者の心理的負担の軽減
- 最終的義歯に患者が慣れる準備としての効果

これらの目的でワイヤークラスプで維持するレジン床義歯を適用する場合、義歯は合理的に迅速に製作しなければならない。

この種の義歯による補綴を行なった歯科医師が必ず経験することであるが、患者の口腔内に装着する際の床の研削調整は、とくに残存歯数がなお比較的多数である場合には、非常に手間のかかる作業である。その原因は口腔内に生じているアンダーカットにある。アンダーカットは歯牙が歯頸に向かって細くなる隣接面、あるいは舌側ないし口蓋側の歯冠から歯根への境界をなすエナメル質隆起部に

存在する。このアンダーカットは、下顎では臨床歯冠が舌側へ傾斜しているためにさらに深くなる。また単純なレジン床義歯で補綴すべき症例の多くは、歯周組織の萎縮がかなり進行しており、その程度によってはアンダーカットが非常に深くなる。

レジン床義歯が適合しないとすれば、その原因は製法にある。歯牙のアンダーカット下に入り込むような床を製作したとすれば、歯科医師はこの過剰部を手間をかけて削除する必要がある。どの部位を削除すべきかという具体的な指針はない。また削除の結果、義歯の装着が可能となったとしても、床の形態は著しく損われ、とくに鉤歯の舌側を十分に囲むことのできない形態となってしまう。

I. レジン床義歯製作のための提案

1. 移行義歯(Aufbauprothese)

移行義歯とは、のちに歯数をさらに少なくする必要のある欠損歯列を暫定的に補綴するための義歯である。残存歯数が少なくなり、無歯顎に至った場合には、総義歯にまで改造することもできる。

初回来院時

- ①. 診査
- ②. 印象採得(場合によっては Ivotray を使用する)

ラボ作業

模型を製作したのち、鑄造床義歯の製作と同様にサベイングを行ない、最大豊隆線とクラスプの走行線を記入する。その際には、より大きなアンダーカットが残存歯の遠心に生じるような義歯の着脱方向を選び、より審美的な補綴を可能にする(図1)。すべてのアンダーカットは、咬合床およびレジン床を製作する前に封鎖する。この模型製作後にただちに行なうアンダーカットの封鎖には、鑄造床製作のための封鎖とは異なり、ワックスではなく石膏を使用する(コストと作業時間を節

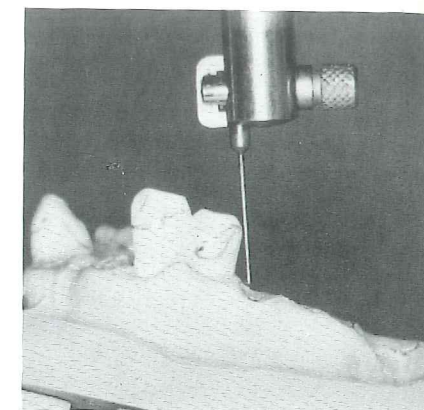


図1 サベイングの際には、遠心により大きなアンダーカットが生じるように模型を傾ける。

減するため)。すなわち模型上の歯の舌側および隣接面に少量の石膏を盛り、完全に硬化する前に、記入してある最大豊隆線が再び見えるようになるまでパラレロメーターで滑沢に削除する。

こうしてアンダーカットを封鎖した模型上で咬合床を製作する。この咬合床は、咬合採得時に残存歯のアンダーカットに接触したり、あるいは動揺する残存歯を押し位置ずれを生じさせるようであってはならない。

2 回目の来院時

- ①. 人工歯の選択
- ②. 咬合採得

ラボ作業

人工歯の排列を行なう。

3 回目の来院時

ワックス義歯を試適し、以下のようなチェックを行なう：

- 中心位および下顎前方・側方運動
- 咬合平面
- 咬合高径
- 発音機能
- 審美性

ラボ作業

まず唇頬側のコーを採得し、ワイヤーを屈曲したクラスプをワックス義歯に固定す